

事業所における自己評価結果(公表)

有限会社どれみ **どれみ** I

公表:平成29年12月18日

事業所名 どれみ I

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	② 職員の配置数は適切である	○				
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされている	○				
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○				
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			業務改善を進めるため、全職員がミーティングの場で計画から改善まで話し合いを行っています	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			平成29年9月～10月にかけて、保護者様に事業所の評価をして頂きました。	
	⑦ 事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価および改善内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		○		外部による評価は実施しておりませんが、今後機会があれば積極的に実施していきます。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			月に1～2回程度、職員研修を行っております。講師は外部からの専門家を招いて行うこともあります。	
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○				
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○			全てのお子さまに、S-M社会生活能力検査を実施し、生活能力の把握しております。	
	⑫ 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子ども支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○				
	⑬ 個別支援計画に沿った支援が行われている	○				
	⑭ 活動プログラムの立案はチームで行っている	○				
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			利用児の能力や特性に応じてプログラムを立案しております。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	○			全てのお子さまに対して、能力に応じた個別支援、グループ支援を行っております。	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	○			毎日事業所内ミーティングを行っております。	
	⑱ 支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援内容を振り返りを行い、気づいた点等を共有している	○			児童発達支援管理責任者を中心にミーティングを行い、支援内容の振り返りを行っております。	
	⑲ 日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○			全てのお子さまとその保護者に対して6ヶ月ごとにモニタリングを行っております。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成29年12月18日

事業所名 どれみ I

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	㉒ 母子保健のや子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				非該当	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等との連絡体制を整えている				非該当	
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			必要性に応じて、連携を取らせて頂いております。	
	㉖ 移行支援として小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			就学時期には、各学校と連携を取らせて頂いております。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関を連携し、助言や研修を受けている	○			必要性に応じて、連携を取らせて頂いております。	
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある		○			現在通所している児童のほとんどが、保育所、幼稚園等と併用しているため、事業所として同年代のお子さまと活動する機会は設けておりませんが、地域の中学校の職業体験等を積極的に受け入れております。
	㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等への積極的に参加している	○				
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
	㉛ 保護者の対応力や向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			今後はコモンセンスペアレンティング初級指導者の資格を持つ職員が中心となり家族支援を行っていく予定です。
保護者への説明責任	㉜ 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明させて頂いております。	
	㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	㉞ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			面談時や茶話会等で子育て等に関するアドバイスをさせて頂いております。	
	㉟ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			茶話会を定期的に開催しております。	
	㊱ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制や整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				

事業所における自己評価結果(公表)

有限会社どれみ **どれみ I**

公表:平成29年12月18日

事業所名 **どれみ I**

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	㉘	個人情報の取扱いに十分注意している	○			PCファイルはID・パスワードを入力することで管理しています。	
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため配慮をしている	○				
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			年に1回程度、地域のグループホーム等に訪問し交流する機会を設けています。	
非常時の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○				
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	㉝	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○				
	㉞	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
	㉟	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				
	㊱	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に1回程度、虐待防止に関わる社内研修を行っております。	
	㊲	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明して了解を得た上で、個別支援計画に記載している		○			該当者がいない為、現在は未実施

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。